

2019.5 のブログ：「改元と『考えることを考える』を考える」

(→ <http://www.1968start.com/M/blog/index.html#1905>) の別紙

「考えることを考える」

中所 武司

■本考察のきっかけ

たまたま、50年近く前の私の思考モデルに関する学会発表で用いた「考えることを考える」という表現と同じタイトルの谷川俊太郎の下記のエッセイを4月に見つけたが、その中に注目する表現があった。

●谷川俊太郎：「**考えることを考える**」、日本の名随筆 別巻76、p.11-p.15 (1997)。

<抜粋>

(1)

「もの考える時、人間はいつもどこかからどこかへ向かって考えるのではないだろうか。

・・・

考えのよって来たる<どこか>の崩壊は、考えの指向する<どこか>の崩壊とひとつのものだろう。それらはふたつとも、閉じられた、固定された場所ではなく、いわば**考えることのエネルギーのベクトルが無限に深まっていく**ような、方向性を動的に内在させている場所である。」

(2)

「この質問には、個人は死んでも、人類は生きつづけるのだということが、確認の必要もない前提となっている。

今、私たちの置かれている不安定な現状はこれとは異なっている。どんな小さな、局所的な考えも、人間の考えである限り、人間の過去と未来に向かって開かれている。

個人の死を前提として考えることはできても、

人間は人類の自滅を前提として考えることはできないと思う。」

■考察1：人類の存続という前提

上記抜粋(2)の類似の話として、以下の過去のブログを想起した。

2011.12 番外編：パグウォッシュ会議を覚えていますか？

<http://www.1968start.com/M/blog/old.html#1112>

その詳細別紙 (<http://www.1968start.com/M/blog/1112pugwash.htm>) の中で、

以下のように述べた：

『科学者の平和運動の出発点での前提として、「人類の存続」が明記されていた』

■考察2：思考のエネルギー

谷川俊太郎のエッセイのタイトル「考えることを考える」という表現が目にとまった理由は、私の下記の文献の中に同様の表現があるためだった。

<引用1：学会発表の「はじめに」の書き出し>

<http://www.1968start.com/M/bio/olduniv/gakkai7012.html>

- ・ 中所、齋藤：思考過程のシミュレーション、
電子通信学会オートマトン研究会資料、A70-76 (Dec. 1970)

『思考に関する問題は古くから研究されているが、まだ暗中模索の状態である。
心理学では、連合主義の立場から、記憶や学習における連想の問題を扱ったものは多いが、
思考の本質に迫る研究は少なく、哲学・精神医学の分野でも同様である。
その理由の一つは、「考えることを考える」という一人2役的困難さのために、
一方の役を熱演しすぎると、他方がおろそかになるからであろう。』

<引用2：修論の終章の最後の段落>

<http://www.1968start.com/M/bio/olduniv/shuuron.htm>

(修士論文題目) 思考過程の数学的表現と模擬実験 (1971.3)

『思考についての研究が、その思考によって行われるというジレンマから
逃れることができないとすれば、我々はすでに第1歩からつまづいていることになる。
研究主体が同時に研究対象であるという特異な分野の困難さをつくづくと感じたのではあった。』

さらに、谷川俊太郎のエッセイの上記抜粋(1)の中の下記の表現が目に残った。

『考えることのエネルギーのベクトルが無限に深まっていく』

私の研究内容とは異なる次元での類似表現なので、その意味するところは異なるが、
エネルギーやベクトルという表現で思考モデルを説明した部分を紹介する。

<引用文献>

<http://www.1968start.com/M/bio/olduniv/gakkai7012.html>

- ・ 中所、齋藤：思考過程のシミュレーション、
電子通信学会オートマトン研究会資料、A70-76 (Dec. 1970)

『思考言語に注目し、それを意識の面からとらえ、
大脳におけるエネルギー分布の集中化作用とし、他方、
集中したエネルギーの拡散化作用を連想機能として、
これら両作用の交互反復過程を思考過程と考えた。』

『思考の基盤には、意識と連想があり、
前者を集中関数 g 、後者を拡散関数 f で表現して、
・・・ 入力、状態、出力は n 次元ベクトル I 、 Q 、 O とし、
・・・ $f g$ サイクルの中で十分に概念化されたものだけが出力になる。』

以上